

見学の心得

1. 見学の申し込み

手紙、メールで（あまり長くならないように、以下の項目を抜粋して記載する）

希望の日にちと時間

直接の電話は避ける

自己紹介

なぜ見学したいか

何を見学したいか

人数

どこで、その先生を知ったか

誰に紹介されたか

2. 見学前準備

その先生の文献にできる限り目を通しておく。

その先生の性格を把握しておく。

見学当日に確認の連絡を入れる

3. 見学当日

シューズ、白衣を持参する（メールで何を持参したらいいか確認するのが最善）

気持ちのこもったちょっとした手土産（ブランド品が望ましい。甘いものに注意、「スタッフへ」といって、直接先生に渡す）

敬語、言葉遣いに注意

4. 見学時

手は後ろ手に組まない

腕組み、貧乏揺すり、大声など不快な行動は避ける

カルテは原則として見ない

患者の誘導、バキューム、洗い物など手が足りないと思ったら手伝いを申し出る

許可がなければ、治療をのぞき込まない。

無駄口に注意。

スタッフと気安く話さない。

写真、録音は控える。

短時間の見学は控える（基本は半日か終日。あらかじめ連絡しておくこと）

院内文書などが欲しい時には、必ず許可を得る

5. 見学終了時

適度な質問

謝辞を忘れない

通常、謝礼は必要ない

6. 見学後

感謝の手紙、またはメールを必ず出す。

短か過ぎても、長過ぎてもいけない

ハガキが無難